慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

·	
Title	勝本鼎一訳 経済法則の論理的性質
Sub Title	
Author	金原, 賢之助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.10 (1923. 12) ,p.1836(226)- 1838(228)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19231214-0226

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新 刋 紹 1

『經濟法則の論理的性質』

岩波背店發行定價二個三十錢

である。 アプリオリミしての貨幣概念、第四「經濟法則則」に就いて、第三章國民經濟學的概念の論理 なし、第 72 るとは 題する。 Fuchs に依りて て博士滯獨中の收 Abhandlungen 17 Heftに收められたもの 緒論、 既に讀者の承知せらる、所であらう。 經濟哲學界の 一章自然法則に就いて、第二章「歷史法 結論の外に結構を分つて四章と Tübinger Staatswissenscha-權威 穫の一であり、Carl Joha-者左右田博士の原著 第四「經濟法則」

のと称すべき經濟法則に對する從來通行の解約言すれば、本書は『經濟學の中心を形成する

の三の設問 云ふ問題に就いて解決を與へんが 問題の 論理的問題即 吾等が或人間生活の分岐を文化問 3 中 心たる を爲した。 判を經濟學に施せるもの只譯者序三 べき經濟法則の論理的 か詳言すれ 般的に言つて經濟學の哲學 を闡 明する事に由 ほん凡 爲に著者は ての方法 性 質 つて

論理的 個別化的 に於い に對して普遍化的概念構成と相並んでせしむる 係はらしめ て解釋し て亦立瞪せらる、能はざるや否や、 經濟學は如 且. んと欲する之が根據以外に、 念構成は吾等の認識其のもの 之が爲に此分岐を 力あらざるや否や。 即兩種の概念構 は經濟學 一定の文化 成にして は或 歷史的 概念に 叉之

の集合に對する唯だの集合名詞を意味するもの や將た自然科學なり 上の意味に於て歴史科學なり 目 ざるも 知識 0)

否

能なりとすれば如何なる論理的本質を示す 經濟學の一部が自然科學に非ずして、 學」として存在すべきなりとせば、今日まで 立證せられ得るや否や、又此經濟法則は、若し可は期の如き科學に於ける經濟法則一般は果して に拘らず、 に言つて、 たる經濟學の内部に於て究明せられねばならな 則の主題に到達し得ん爲に、 法則」たり得るや否や。然るに經濟學 一般的考察を施さればならない。 答に先立 證せられ得るや否や、又此經濟法則は、治 ものにして、 的」とは何 他方余は 而して是當 たる諸法則 此等は事質因果法則の意味に於ける つて特に經濟學的概念構成に關する 一個の歴史科學たるべきなり ぞさ云 一般方法論的解明より特に經濟法 して方法論的 に至るべきである(原著序文十一に之に依つて法則が經濟法則 若くは諸理論其他 の疑問を解決する ム問題が 此第三間に對する に言つて 一經驗的存在科學 茲に、抑々「經 方法論的 さすれ 自 提た ~° (

> 儿 頁

E とは、 讀者の此 が學界に 於て科 所でな 即近 雖譯者 せるかてふ事質を是より に原著編纂者たるフックスも述べてゐる『凡そ 誕生に對して爲したる貢献に至つては、 の極 かすと述 叉曰く 時再び勃興せる斯學方法論の問題が 3 本書 本叢書の收むる所是悉~ 3 6 下的に 價値 共に固く 三つ或 意味深き波紋を生ぜし から敢て姑 て貧弱なる筆者の 如き叢 する異國の 『本書の如き勞作が べて居るけれ を則 べ しど思惟せらる へたるや否やを あ 書編纂者より 信じて疑はざる者である。 る勞作 加一之を述 3 つの 疑問に 300 者の見解に 而して著者 如きの 収す なる ~: 15 るを得 期待し得べきこ 獨乙専門家に對 何等かの意味に 8) ゝ主たる興味は よく爲し得る あるのみ 經濟哲學の 世 して 而も本書 一對する知 3 何に反響 ど力 雏 全然 者と 7 B

(1八三七) 一點新刊紹介

第十七卷

クて 最後に、 る刺 3 1. を博 7 3 非に 出す氣にはなれないと述べて居られるに至 き小さ と のものたらしめんが為に随所に附せられ 而も原著者が本譯 は、寧ろ著者の謙 して遺憾なきことを、 譯者が特に卷末に 士が幼少の折に始めて用ひ 就と其数ふる所の少 V 筆者も之等原著者並に あ ざる所なり」と。 譯文は極 き袴に n りとする場 ならぬ めて明快であつて原著の意 譲の言と認 書を 今更此小さき袴を展覧 してア 附言しなけれ 於ても からざる 6 n 譯 U 者に感 12 ッ 其後藏 べきである。 索引 はかる ッ 原 然者が本 プツ 訓の意 ばなら せら 以 確 0 72 ゔ゙゙

徒に つて本譯 つて の重要なる間 たこと 斯學研究者の至幸 題とせらるく秋に

哲學が經濟學 徒並に一般文化 科學の

今や經濟 (金原賢之助)

を算す 3 財學 會 理財學會々報 0 **)** 43 講 興味ある時 演あり b 大 ポ • 事 間 題 にて 百就理

變災

里 方と全 て動飢 ン こどを言ひ īd: 説を紹介 るところに起り ところに ゲ と動飢 會革命は資本主 ン N スの言 ミュ 図と を企て 力 起らず Ļ 選舉運動を の對抗を見 ンの前例を説き、 72 を引き我が 若し斯く て他 謎 t b L 3 とするも異 を奉ずるもの T 義 b 0) 發達の最高度 死るに至るべしとて、一くして動亂起らば、一 遠慮す えるに至る 合法運 叛 及 亂 事 鍞 結局ブ 曾 ~ 助 定機 ۲ を恐る ΞĖ E. K 0 震災に E に足らざる ラ 翮 泉 の混飢せ 渚 N 達した ゔ゙ 信 3 (0) Ÿ I. 態度 13 際し 31 ---11 111 л. 7

政府の せる 後の欠陷を明 の流言弦 3 3 交を全然無視せる 内 0) 人に契約 節 8 を指摘す。 借募集 應急對策は Ü 濟關係とを混 なきやを論じ外債問 神器 かに暴露せるもの 業 の得策め 振興 ては被 資本家階級の 0 要求を爲せるものなりと 並 3 びに る所 同 念動きを概歎 保險者が 視するの愚を戒 民の 失業者 以 を調 保護に 問題に就 態 なりとし、 救濟 契約 度 1 は のみ偏 規定の 更に諸 0 急務 次に し T は 8

を開き、 卓を園場に教 N で歌談 N 笑 午後七時

閉

會

教授を中

として

出席幹 事 次の 如

H 柳 比野 渡邊 森 复日 田 平. 永野、田 江越

(1人三九) 報

> 鈴 木 和 田 濱谷 松本 楢 原

本

-